

「一流になりなさい。それには、一流だと思込むことだ」という本からです

ほめてあげる。それだけでよい。人間の能力は無敵だよ。

歩きはじめて三週間後、由樹は満開の桜並木を自分の足で歩きながら、小学校に入学しました。「なんで赤ちゃんが来てるの？」友達が不思議そうに語り合うほど、小さい。確かに赤ちゃんに見えるのですが。そして四か月後の運動会。彼はダントツのビリでしたが、友達との徒競走で校庭一周を完走してくれました。「素晴らしいなあ。ほめてあげなさいよ。それだけでいいんだ。それにしても、人間の能力は無敵だね」そう言ってくれた船井先生に、一つの文を送りました。それは、由樹が四歳のときに保育園の文集に投稿したものです。それを読んで泣いたこと。そして、君たち両親の頑張りに敬意を表しますとの手紙を船井先生からもらったのは、送って二日後のことでした。その一文を載せさせていただきます。ここのなかに出てくる師とは、もちろん船井先生のことです。

春は来るよ。 佐藤芳直

由樹君。パパは冬が大好きです。山茶花の花が固雪の上、小さな陽だまりの中で散り舞っている姿。暖炉の薪がはぜる音に、ふと雪夜の寒寂に気づく時。冬は、小さな暖かさを日々の時間の中で、沢山感じさせてくれるからかもしれません。この二〜三ヶ月、君の成長ぶりにパパは驚いています。凄いですね。もう、黄色いカーートのフェラーリに乗って、飛ぶようなスピードでどこへでも行けます。ちっちゃな体のくせに、いざって、パパの書斎まで来てくれるでしょ。そう、昨日は階段を降りることも覚えましたね。もう、由樹君は何でもできる！はらはらしながらもそう確信できる毎日が、夢のようです。「世の中で起こることは、全て必然であり、必要なことだ。無駄なこと、意味のないことなど、一つもないのだよ」パパが師から幾度となく聞かされた言葉です。どんなに大変なこと、悲しいことであれ、必要があって起こる。私達に、何かを教えようとして起こる。だから、どんなときも感謝して迎えなさい。そして、何かをそこから学びなさいと言うのです。君が生まれて三日目。ようやくパパは、君のところへ向かう新幹線の中にいました。その翔ぶような気持ちの中で、幾度となくその言葉を思い出し、真剣に我が事として理解しようとしていました。いつもより少し早い夏が、蔵王山を萬緑に染めていました。まるで山々が、夏の気配に笑っているような日でした。保育器の中の君を見た瞬間、それまでの色んな自問や悩みは、あっという間に消えていました。少し発育が遅れていること、なかなか立てないこと。それは全て君の個性です。パパはそんな君から沢山のことを学んでいます。沢山の大切なことを教えられています。そして家族みんなが、由樹君の全てを愛しています。冬の寒い夜、ストーブの上のヤカンがシュンシュン音を立てていることにすら、温かさを感じるように、君の一ミリの成長が、君の一つの言葉がうれしいのです。ですから、人生の中で今ほど幸せを感じる時はありません。毎日毎日が、君の成長に対するうれしさに満ちています。正直に言えば、パパもママも君の寝顔を見ながら、立ち向かわなければならぬこれからのことを思うと、胸が潰れそうになる瞬間もあります。でもね、「よーし、全部闘ってやろうじゃないか。さあ、いこう！」パパもママもおじいちゃんもおばあちゃんも、そう思っているのです。「さあ、いくぞ！」君の笑顔を毎日見ながら、どんどんその勇気は、強くなるのです。今パパは、世の中の全てのことを必然・必要なんだと素直に思えます。毎日の家中の笑い声を聞きながら、どんな時も、その時がベストだ。そう思えそうな気がします。今パパは、南紀路に行く由樹君の大好きな鉄道の中です。雪の仙台から三時間。ここはもう、早春です。この春由樹君が、桜の花にどんな声をあげるか、とても楽しみです。そう、あっという間に、春が来ます。 パパより

パパが師から幾度となく聞かされた言葉は何ですか？

()